夢追い人

技術を学び、繋いでいく

今回の夢追い人は工房希航の酒見さんにお話を伺いました。

工房 希航（きこう）
代表 酒見 良平 さん
（大川家具職人塾一期生）

大川家具職人塾

"職人を"目指して

大川家具職人塾の一期目から参加されている酒見さん。職人塾へ応募するきっかけはなんだったのでしょうか。

「家業が家具製造で、家族で仕事をこなしていますが、それは量販店向けのものです。分業化されている作業の中で、家具の組み立てが主な作業です。使用されている材料もベニヤやMDFなどで、無垢材を使って一から家具を作るということはありませんでした。それまでは無垢の板を触ることもありませんでしたし、これで家具を作れと言われても作れる状態でもありませんでした。それじゃいけないと悩んでいるとき、ちょうど職人塾の塾生募集の案内を目にして、挑戦してみよう！と思ったのが一つ目のきっかけです。それから学生時代の友人のSNSで、彼が林業に関する仕事を始めたと知りました。彼が切った木を使って、自分が家具を作りたいと思ったのですが、現状は無垢材を扱ったことがないため、そう言えるように勉強してみようと思ったのもきっかけのひとつですね。それから大川の木工自体がコンピュータ制御の高度な機械での作業に変わってきています。ですが、うちは家族だけの事業所なのでそういった機械を導入できるような状況ではありませんでした。だったら手作りの家具を作ってみたいなと思いました」

二〇一五年からスタートして、五年目となる大川家具職人塾。これまでには食器棚や椅子の製作を行われてきたそうです。

「最初は小箱のようなものを作りました。基礎の基礎のようなものですね。ですが、それも板の状態から切り出して完成させるまで、ほとんどが手作業でした。いま大川の木工所で板の状態から切り出して手作業で家具を作成すると

ころは、ほとんどないと思います」

一期生として現在も家具職人塾へ参加されている酒見さん。

「一年目が終わった時点で、まだ自信も技術も足りないと感じました。二年目も継続されるということだったので、そのまま塾生を続けました。二年目は塾生で話し合った結果、ヒノキ材を使用した食器棚を塾生全員で作りました。また三年目からは、教えてくださる山永先生※1がもともとウィンザーチェアを研究されていた方ということもあり、椅子やテーブルを作りました。いまはロッキングチェアを作成しています。それから先生の補助的なこともやっていますが、教えるというほどではありません。私自身、まだまだ学んでいる途中ですね」

手作りのカウンター

座面の曲線も手作業で

曲線を生み出す作業なども全て手作業で行われているとのこと。

「椅子のアール※2の部分も鉋をかけて仕上げるなど、全部手作業で行っています。ペーパーで仕上げているところも増えているため、鉋で仕上げているところは少ないかなと思います。板材からの切り出し、塗装まで含めた製作に関する作業の全てをほぼ一人で行います。大きな事業所は分業化されていると思いますが、効率を考えればそれが良い方法だと思います。ですが、私がやるならば一から十まで全部一人で作成する方法を勉強したいと思いましたね」

学びの次のステップ

大川家具職人塾で技術を学びながら、工房希航を起ち上げられた酒見さん。家業ではなく、新たに工房を起ち上げられた理由をお伺いしました。

「職人塾で学ぶだけではそこで終わってしまうと感じがしたので、技術を学んだ後の次のステップ、製品の販売に繋がる窓口を作りたいと思ったのがきっかけで、塾生を代表して私が起ち上げました。そこを拠点に先生から学んだ技術やデザインを生かした製品づくりを行って、発信していきたい。商品化して販売に繋げて行きたいと考えています」

そういった考えのもと実際に工房希航を起ち上げられたのは、約一年前とのこと。

「これまでの一年間は作品の製作がメインでした。一般の方に向けて作品を展示したのは、昨年のクラフトマンズデイと今年の藩境まつりの二回のみです。十月に開催される大川木工まつりに出展する予定にしています。販売につながるような展示即売会の場に出るのは、今回の木工まつりが初めてです。

木工まつりでは現在製作しているロッキングチェアも展示する予定です。それに改めて先生からデザインしていただいた新作も一緒に展示します。最終消費者であるお客様から商品に対しできるだけ多くのお話を聞かせていただき、商品開発に活かしたいと考えています。この木工まつりから色々なことが始まると思い、不安もありますが楽しみでもあります。

商品に関しては、お客様の意見を聞きながら提案できるところは提案しながら、最終的にお客様の希望に沿ったものを作り上げたいと考えています。いまデザインは、先生にお願いしています。自分たちではまだデザインまではできないと言うと、先生は『製作していくなかで経験している。デザインも含めて学んでいるのと一緒。そのうち自分たちのオリジナルの発想が出てくる』とおっしゃられました。いまはまだ先生のデザインで作るので精一杯ですが、いつかは先生の意思を継いだような家具づくりができたらと思っています」

また創業したもう一つのきっかけは、時間的制約が解消できたためでもあったとのこと。

「一昨年までインテリア研究所をお借りして職人塾が開催されていましたので、月に四日だけという時間的な制約がありました。創業したいという思いが大きくなっていく中で、月に四日だけでは技術の習得、復習、製作を行う時間がぜんぜん足りないと感じていました。月四日の職人塾は先生から技術を学ぶ時間、それ以外の時間は経験、研鑽を積む時間にしたいとの思いから、事務局に対し塾の時間以外でも自由に制作に使用できる工房が欲しいと伝えました。

こうして現在の場所に移り、職人塾以外の時間でも製作できる時間と場所ができたこと、環境が整ったことで、創業に向けて大きく踏み出すことができました」

”手作り家具”を残していく

「工房希航での収入はまだわずかですが、職人塾で学んだ技術などをいかした手作り家具を多くの方に知っていただき、事業を継続していきたいと思います。また、工房希航の家具を通して教えてくださっている先生の意思や経験をたくさんの方に見てもらえたら嬉しいと思います」

手作り家具の技術を残していきたいとも話される酒見さんの夢はなんでしょうか。

「ノミや鉋などを使って仕上げる家具が少なくなってきているのが現状ですが、そういった家具も技術も残していけるようにしたいと思っています。また、学んだ技術を家業にも伝えたいですね。まだまだ作った家具は多くありませんが、いずれは職人塾で学んだことを大きく超える工房希航オリジナルの家具を作っていきたいと思っています。手作り家具ならではの良さ、無垢材ならではの良さを分かっていただける家具作りをしていきたいですね。そして、これは私たち工房希航が作りましたという、他にはない家具を作っていけるようになりたいです。いつか子供に『この家具は全部お父さんが手作りしたものだよ』と自慢したいですね」

※1 … 山永耕平氏。FDY家具デザイン研究所 主宰
※2 … 曲線。曲面。カーブ。また、曲線や曲面の曲がり具合。